

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「やる気 いっぱい、やさしさ いっぱい、元気 いっぱい、蒔田っ子」
 (知) 自らすすんで問題にかかわり、他者とのつながりを通して、粘り強く解決することができるようにします。
 (徳) 人との関わりの中で思いやりの心を育み、自他のよさを認め、自分に自信をもつことができるようになります。
 (体) 望ましい生活習慣を身に付け、健康で安全に過ごせるようにします。
 (公) すすんで自分たちのまちとかかわり、学校や地域をよりよくするために自ら考え、実践する力を育てます。
 (開) 多様性を尊重し、国際社会への視野を広げられるようになります。

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

自分づくりに関する力

具体化した資質・能力

先の見通しをもって、自己実現を目指す力
 自分に自信をもち、自他を高めていく力
 社会とつながり、地域を愛する力

中期取組目標

(知) 算数科、国語科を中心とした基礎学力の向上を目指すとともに、対話的・問題解決的な学習を取り入れる。
 (徳) 他者との関わり合いを通して自己のよさに気づき、自分やほかの人を大切にできる豊かな心を育てる。
 (体) 運動に親しみ、総合的な健康・安全教育の推進を図る。
 (公) 「人」のつながりを意識し、豊かな体験的活動を通して、学校や地域を愛する心情を育てる。
 (開) 豊かな情操を育成するための体験的活動を通して多様性を尊重し、共生する力を育てる。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
個に応じた指導	①少人数指導、のびのび教室(特別支援教室)スモールステップによる一人ひとりの力に応じた指導法の導入を進める。 ②タブレットを活用し、自ら進んで行う学習、学び合いを通して深める学習の基盤を築く。
担当	研究研修委員会

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力の概要分析
 学力は、全学年で市の平均を下回っているが、学習意識や生活意識は市の平均を上回る学年もある。学年ごとに違いはあるものの学習意識は全体的に高まってきている。反面、高学年になるほど、学習内容に難しさを感じる子が増えている。低学年のうちから基礎・基本の力を定着できるように、指導方法の工夫、既習事項を生かして問題解決に取り組むこと、対話的な学びを進めることでそれぞれの能力を高めていきたい。

(2) 教科学習の状況
 国語科：全体を通して、登場人物の気持ちや行動の変化を読み取ることなどの、文学的な文章読解能力に課題がみられる。
 算数科：2年生、3年生は「数と式」の内容、4年生～6年生は、「図形」の内容にそれぞれ課題が見られる。経年変化としては、全体的に、徐々にではあるが学力の高まってきている。

(3) 生活実態調査より
 「何事もがんばる方ですか」や、「まじめにコツコツと取り組む方ですか」では、多くの児童がそうであると回答している一方で、「自分のことが好きですか」「自分にはよいところがあると思いますか」の設問では、市の平均を下回っている。努力が報われる、努力を続けてよかったと全ての子が感じることができていること、自己肯定感を高めていくことができるようにしたい。

今年度の目標

学力のさらなる向上

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	<p>【スキルタイムを通じた基礎・基本の学力向上】(通年) ○学年ごとに市の学力学習状況調査の分析を行ったうえで当該学年の児童の実態に応じた課題を設定し、国語科、算数科の習熟を図る。 【教師の授業力向上】(通年) ○各種研修会や一人1回の研究授業を行い、教員同士で授業を見合うことで、確かな資質・能力を身に付ける学習の在り方、個への支援や手立てについて理解を深め、日々の授業の授業力向上を図る。 【個に応じた指導】(通年) ○スモールステップによる一人ひとりの力に応じた、子どもが「できた・わかった・やればできる」を実感できる指導を目指す。 【学び合いの時間の充実】(通年) ○タブレットを活用する中で、自ら進んで行う学習、学び合いを通して深める学習の基盤を築く。 【児童が安心して学べる学習環境】(通年) ○特別支援教育の視点から子どもが集中できる教室環境を整える。(ユニバーサルデザイン化) ○教科分担当や専科制、少人数指導等を取り入れ、一人の子を複数の教師が見て、その子との信頼関係を築いていくことで児童理解を深める。</p>
下半期	<p>【授業改善】 ○前期の学習状況から後期の指導計画を見直し、指導の改善を図る。 ○令和4年度の横浜市学力学習状況調査から、令和3年度の指導の成果と課題を分析し、家庭と共有する。 ○教科分担当や専科制、ブロックでの合同授業など、柔軟に取り組む、子どもの姿をより多くの教職員で共有していく。 ○有効なタブレット活用事例を全教職員で共有し、実践していく。</p>

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育	①情報共有や研修を実施し、全学級の授業公開を年1回以上行うことを通して、道徳科の授業の充実を図る。 ②挨拶のよさを実感できる取り組みを実践し、挨拶の大切さや、すすんで挨拶する意識を育てる。
担当	道徳部

豊かな心に関わる本校の状況

(1) 豊かな心に関わる児童生徒の実態
 令和3年度実施の横浜市学力・学習状況調査の生活意識調査の結果を見ると、「あいさつを自分からしていますか」という質問項目に対して7割弱の児童が「している」と答えている。人権国際委員会を中心に「あいさつ運動」に通年で取り組み、挨拶のよさを実感できていることが大きい。
 しかし、「自分のことが好きですか」の設問やY-P-Aセサメントの結果からは、学年が上がるほど自尊心が低くなる傾向が見られる。明るく、子どもらしい素直な一面をもっているが、自己有用感が低く、自分に自信がもてずに学習に集中できなかったり、友達とトラブルになったりするなどの課題がある児童もいる。道徳の時間の充実を図り、人との関わり合いの中で自他を大切にすることを育むことで自己肯定感を高めていきたい。

(2) これまでの学校の取組状況
 ・「道徳の時間」の充実…道徳教育全体計画別業の作成を通して学習の総合化を図るとともに、授業の研修会を行い、授業改善に努めた。
 ・体験活動の充実…縦割り班活動や委員会活動など豊かな体験を通して、互いに認め合い、学び合えるような望ましい集団づくりを行った。

今年度の目標

道徳の時間の充実を図り、人との関わり合いの中で自他を大切にできる心情や態度を育むことで自己肯定感を高める。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	<ul style="list-style-type: none"> 道徳科の授業や評価についての研修を行い、授業改善に努める。 年間指導計画を作成する際に、学校行事や各教科などとの関連を図り、道徳の見方・考え方を自分ごととして学んでいくようにする。 全学年一回以上道徳の授業を公開し、地域や保護者と協力して道徳教育の充実を図る。 メンターチームを中心に道徳科の示範授業を参観し、道徳の時間の基本的な学習の流れについての理解を深める。 ベア学年での学習交流や縦割り班活動、地域や学校でのあいさつ運動の取組を通して、集団の一員としてよりよい人間関係を築こうとする意欲や思いやりの心を育てる。
下半期	<ul style="list-style-type: none"> 全学年一回以上道徳の授業を公開し、地域や保護者と協力して道徳教育の充実を図る。 メンターチームでの事前研修や授業研究会・研究協議会を通して、道徳の授業の基本的な学習の流れや道徳科の指導方法などについて学び、授業力を高めることで、主体的に対話的な道徳科の授業を目指す。 年間指導計画や道徳教育全体計画別業を見直し、道徳の時間のより一層の充実を図る。 ベア学年での学習交流や縦割り班活動、地域や学校でのあいさつ運動の取組を通して、集団の一員としてよりよい人間関係を築こうとする意欲や思いやりの心を育てる。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①スキルタイムや休み時間を意図的に運動する時間にあて、運動に親しみ体力の向上を目指す。 ②自分の体や心のことを知り、自分や友達を大切にすることができるように包括的な健康教育を推進していく。
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況

新スポーツテスト生活意識調査より
 1日のパソコン(タブレットを含む)・携帯電話・携帯ゲーム機の視聴時間について3時間以上と答えた6年生の児童は男女ともに全体の40%を占める。ぐっすり眠る時間が週に6日以上と答えている児童は2～6年の男子では50%にとどまる。女子も学年が上がるにつれてぐっすり眠れていない割合が高まっている。1日の睡眠時間は全体の9割程度の児童が6時間以上の睡眠時間をとっている一方で、6時間未満の児童は全体の1割程度いる。運動・スポーツの実施状況は、ほとんど毎日と答える児童よりも、週に1～2回、月に1～3回、しないと回答する児童の方が多い。
 体力テストの平均値で見ると、概ね全国平均を下回っている。特に、シャトルランは全国平均より10回以上得点が高いなど、持久力の低下が顕著にみられる。50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ等、児童全体の筋力が低い状況にあることが分かる。
 男女ともに、体重が全国平均を上回っている。運動不足と、肥満傾向が本校の児童の体力低下の一因と考えられる。
 コロナ禍の中で、児童の学校生活での運動の機会は、大幅に少なくなった。学校全体で児童の健康の保持増進及び体力向上を目指した取り組みを推進していく。まずは、児童が自らの状況を知り、課題をつかむことが必要となる。その上で、学校生活の中で運動の機会を保障すること、児童が運動の楽しさを味わい、自ら進んで運動(スポーツ)に親しむことができるように、日々の体育の授業改善をすることなど、必要な手立てをとっていく必要がある。

今年度の目標

健康な心と体を持続させるための、自分の課題がわかる。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	<p>【体力健康アップ大作戦カードを活用した自分の体力と向き合う時間の設定】 ・自分の体力テストの結果や生活実態調査の回答状況から、体力健康アップ大作戦カードに自分のめあてを記入する。 【体育学習でそれぞれの体力に向き合ったり、運動の楽しさや喜びを味わったりするための体育の授業改善(通年)】 ・体育の単元の第1時に新体力テストの結果を関連付ける。(発達段階に応じて) ・子どもが運動を好きになるように、教師が1単位時間の運動量を確保し、スモールステップによる段階的な指導を行い、運動の特性に触れられる楽しい体育の授業を実践する。 【各クラスの「健康アップ大作戦」の取り組みを推進】 ・各クラスで健康課題について話し合い、課題解決に向けた取り組みを考える。 ・学校だよりで児童の体力状況を保護者へ周知、学校保健委員会(6月)で学校での取り組み状況を保護者、地域と共有。 【スキルタイムや休み時間を活用した取り組みの推進】 ・児童会(運動委員会)が中心となって、短縄の取りくみを実施する。</p>
下半期	<p>【体力健康アップ大作戦カードを活用した自分の体力と向き合う時間の設定】 ・年2回(10月、3月)、ふり返り、計画見直しを行い、児童が自分の体力に向き合うことができる機会を設定する。 【各クラスの「健康アップ大作戦」の取り組みを推進】 ・各クラスで健康課題について話し合い、課題解決に向けた取り組みを考える。 ・学校保健委員会(2月)で学校での取り組み状況を保護者、地域と共有。 【スキルタイムや休み時間を活用した取り組みの推進】 ・ストレッチ、短縄、フライング、ボール投げ、短距離走、鉄棒等、児童会(運動委員会)を中心とした取り組みを実施。</p>